



若者こそ知って欲しい、若年性認知症。

認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。

若年性認知症は働き盛りの世代で発症するため、ご本人だけでなく、ご家族の生活への影響が大きくなりやすい特徴があります。

病気のために仕事に支障がでたり、仕事をやめることになって経済的に困難な状況になってしまいます。また、子どもが成人していない場合には親の病気が与える心理的影響が大きく、教育、就職、結婚などの人生設計が変わることになりかねません。さらにご本人や配偶者の親の介護が重なることもあり、介護の負担が大きくなります。



日常生活の中で、少しの気づきが若年性認知症の発見につながります。「認知症かも？」と思ったときには、認知症を専門とする医師がいる医療機関に、早めに受診しましょう。早期に診断・治療を行うことで進行を遅らせることができます。

【職場での変化】

- 作業に手間取ったり、ミスが目立つようになる
- 職場の仲間の名前が思い出せなくなる
- 伝言したことがうまく伝わらない
- 約束を忘れてしまう

【生活の変化】

- 車の運転が適切にできなくなる
- 知っている道で迷ってしまうことがある
- 身だしなみに無頓着になる
- 家電製品の使い方が分からなくなる

など

など

「認知症は高齢者のもの」というイメージがあります。そのため、認知症の症状があっても、年齢が若いと、本人やその家族は認知症の可能性を疑いません。むしろ、疑いたくないということもあるかと思いますが、少しでもおかしいと気づいたら、迷わず専門家に相談してください。

若年性認知症の人の抱える課題は就労から介護まで幅広いのですが、様々な制度や社会資源を活用することで生活の安定がはかれます。若年性認知症支援コーディネーターなども積極的に活用していきましょう。

若年性認知症の当事者である丹野智文さんが全国で展開している「おれんじドア」という相談室では、当事者同士の交流が盛んにおこなわれています。

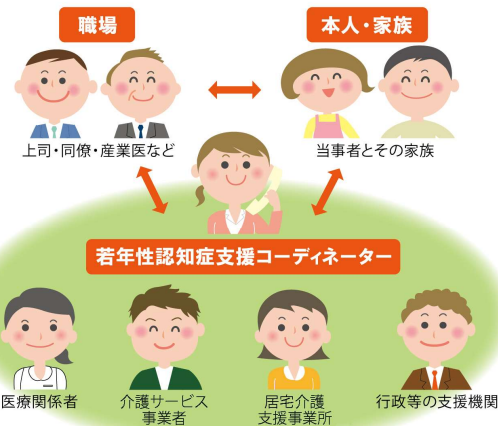
ここ最近のハロウィンの盛り上がりぶり・・・その昔はマイナーなイベントでしたが、いつのまにか国民的なイベントとして浸透してきました。

一方で今月は伝統的なお祭りである「酉の市」が各地で開催されます。

お祭りで気分が盛り上がり、脳が活性化されることで、認知機能が向上することが期待されますので、こういった機会は“無理のない範囲で”積極的に活用していきましょう。

今年「三の酉」までありますが、昔から「三の酉までである年は、火事に注意」と言われてます。(理由には諸説あるそうですよ。)

認知症でも火事は大敵！・・・これからの乾燥の季節には特に注意していきたいですね。(たいこん)



講演会「認知症とともに生きる」

去る10月26日に開催された「ちよだ認知症ケア講座第6回 認知症とともに生きる」に参加しました。

若年性認知症を題材とした映画のモデルとなった丹野さん(上述の方です)と、デイケア施設DAYS BLG! はちおうじ代表の守谷さんのお話のなかで、『特別扱いではない「水平な関係」が大事である』とおっしゃっていたのがとても印象に残りました。

終始ウィットに富んだお二人のお話はとても楽しく、いろいろと勉強させて頂きました。m(_)_m



★参加無料★「コラルトの認サポ」大好評開催中!

次回開催は2024年11月23日(土)18:00~19:30です!

※お申込は右のコラルト公式LINEのQRコードから、お気軽にどうぞ!

公式WEBからもお申し込み可能。(本新聞のバックナンバーも是非ご覧ください!)

コラルトWEB



公式LINE

